

報道関係者各位

2018年4月23日(月)



たる研通信 vol. 56
～ ドクターシーラボ『顔のたるみ研究所』がお届けするニュースレターです ～

たるみはコラーゲンで解消できる！ ～医師が明かす、コラーゲンの可能性～<前編>

ぽかぽかと春の陽気を感じ始めるようになったこの頃ですが、一般的に、**季節の変わり目は肌の状態も乱れがち**になります。1日の中での寒暖差に加え、花粉も飛散するこの時季は肌のバリア機能が弱まり水分保持力も低下する傾向に。肌が乾燥してうるおいが失われた状態が続くと真皮にまで影響が及び、**肌の弾力を生み出すコラーゲンやエラスチンの生成力が衰えてたるみの原因**に。このような季節の変わり目こそ、スキンケアの見直しが大切。

今、注目してもらいたいのはズバリ、“コラーゲン”！今回は、皮膚科領域の先端医療や最新の成分に精通したシロノクリニック総院長 城野医師のインタビューをもとに、コラーゲンのもつ秘めた力についてお伝えいたします。

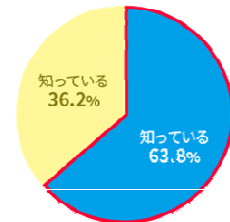
アンケート調査結果

(調査概要: WEBアンケート調査 / 20～59歳女性 384名 / 調査期間: 2018年2月20日(火)～21日(水))

■6割の人が加齢によるコラーゲンの質と量の低下を認識!

加齢によりコラーゲンの量と質が低下することを知っているかを尋ねると、6割以上の方が「知っている」と回答。コラーゲンが減少する要因は、紫外線や乾燥など様々ありますが、**誰もが避けては通れない「加齢」が引き金になる**ということは一般的にも知られているようです。

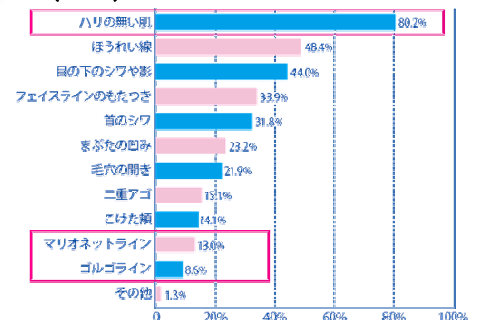
Q1.加齢により、人体に存在するコラーゲンの質と量が低下することを知っていますか？
(n=384)



■あれもこれも、実はコラーゲンの質と量の低下が原因だった!?

次に、コラーゲンの量の低下により生じる肌変化について知っているものを聞いたところ、8割以上の方が「ハリの無い肌」と回答。しかし、その他にも「毛穴の開き」、「二重アゴ」など、コラーゲン量の低下による肌変化は多岐に渡ります。また、「マリオネットライン」、「ゴルゴライン」などは、**たった1割程度の人しかコラーゲン量の低下との関係性を認識していません**。しかし、シロノクリニック総院長の城野先生によれば、**どれもコラーゲン量の低下による老け顔サイン**とのことです。

Q2.コラーゲン量の低下により生じる肌変化について、知っているものを教えてください。
(n=384)



教えてドクター！コラーゲンのあれこれ

コラーゲンとは

<そもそもコラーゲンって?>

皮膚・骨・血管などに多く含まれる、人体を構成する重要なタンパク質のひとつ。人間の身体のタンパク質のうち約30%はコラーゲン。肌内部の真皮においては約70%を占め、網目状のネットワークを作り肌の弾力を保っています。

<種類はどれくらいあるの?>

人間の身体の中には全部で28種類。そのうち9種類が皮膚に存在し、I型、II型…と「型」で分類されていて、その中でもI型、III型のコラーゲンは肌のハリや弾力を保つのに重要といわれています。

<どんな構造でハリを保つ?>

真皮のコラーゲンは、太い線維をつくるアミノ酸が繋がってできた鎖を3本組み合わせた「3重らせん構造」。それが多数集まり太いひも状になったものがコラーゲン線維で、皮膚の強度を保つ組織として肌のハリや弾力をつくっています。

<量低下…肌への影響は?>

1つは、コラーゲンは肌の弾力を持っているためハリが不足し、しわやたるみが生じやすくなること。2つ目に、真皮でコラーゲンの隙間を埋めて水分を保つ役割を司っているヒアルロン酸の量も低下し、肌が乾燥しやすくなることあげられます。

誰もが一度は耳にするコラーゲン。その作用は様々です。具体的な働きについては、次頁へ▼

肌に弾力が生まれるメカニズム

コラーゲンのほかに、肌のハリ・弾力をつくるのに欠かせない主な要素が3つあります。

エラスチン

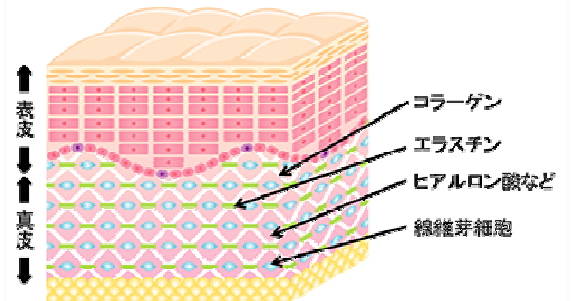
線維状のタンパク質で、コラーゲン同士を結びつけて網目状に組み立てる働きをしています。組み立てられたものは、**ゴムのよう**に伸縮する性質があり、肌の弾力や柔軟性を維持します。

ヒアルロン酸

ゼリー状のヒアルロン酸は、コラーゲンとエラスチンによって作られた網目状の構造の隙間を埋める役割を担い、肌のうるおいを保っています。

線維芽細胞

線維芽細胞は、いわば美肌の製造工場。コラーゲンやエラスチン、ヒアルロン酸を産生し、美肌に導きます。



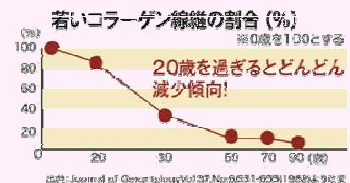
コラーゲンとの関わりあい

真皮のコラーゲンは、**真皮の構造全体を支える支柱のような役割**を果たしています。しかし、それはコラーゲンだけの力ではなれません。**コラーゲンをエラスチンが繋ぎヒアルロン酸が隙間を埋めることで、しっかりとした土台を作り、肌にハリや弾力をもたらすのです。**また、そうして強固になったコラーゲンが真皮の構造を支えることで、**線維芽細胞が正常に機能できる環境も整います。**そして、肌の水分を保持するヒアルロン酸も滞りなく産生され、うるおいを保つ役割を十分に発揮できるようになるのです。

つまり真皮では、**コラーゲンとエラスチン、ヒアルロン酸、そしてそれらを生み出す線維芽細胞がそれぞれ関わりあいながら、肌のハリと弾力、うるおいを保持しているのです。**しかし裏を返せば、**加齢などにより線維芽細胞が衰えてコラーゲンやエラスチン、ヒアルロン酸の産生が滞ると、肌ではハリや弾力が失われ、下方向へ顔がたるむ原因に。**

MEMO

0歳を100%としたとき、コラーゲン線維の割合は右肩下がりに減少しますが、**20歳を境に急激にコラーゲン線維が減少。30歳の時点ではなんと半分以下にまで！**年齢を重ねるにつれてたるみやシワなどの老け顔サインが現れるのは、コラーゲンの減少によるものなのです。たるみが気になる時は引き上げる肌表面のケアはもちろん、**肌内部からコラーゲンを生み出し、補うケアが必要不可欠**です。



コラーゲン不足チェック

コラーゲン、不足していませんか？

これらの写真は、全て「コラーゲン不足」によるものです。是非、ご自身の顔と見比べてチェックしてみてください。



※こちらの特集詳細は、「顔のたるみ研究所」へ！
<http://www.tarumi-labo.com/special/3359/>

顔のたるみ研究所

検索

お問い合わせ先：(株)ドクターシーラボ 宣伝部 広報グループ
TEL:03-6419-2508(直通) FAX:03-6419-2550 info@tarumi-labo.com
顔のたるみ研究所担当：高江洲(たかえす)・伊尾知(いおち)